

学校だより

令和2年度 第7号
岐阜市立岐阜小学校

ふるさと大好き

令和2年9月30日
岐阜市大工町1番地
TEL 058-265-6388

学びの足跡を残す「団体演技発表会」の実施

校長 藤田 忠久

コロナ禍の影響で運動会を中止する学校が相次ぐ中、萩生田光一文部科学相は9月4日の閣議後会見で「規模を縮小してでも実施していただけないか」と述べました。文化祭や修学旅行なども挙げ、来年の3月31日までの積極的な実施を呼びかけたのです。春に予定していた運動会がコロナ禍で軒並み中止となり、秋の運動会も感染拡大が治まっていない自治体では中止を決めている学校がほとんどです。一方、学年ごとに時間を分けて開いたり、競技数を減らしたり、保護者観戦を控えてもらったりして行う予定の学校もあります。萩生田文科相は「授業をしっかりと確保することも大事」としつつ、「いつもとは違う形であっても、子供の学びの足跡が残せるような運動会や文化祭などは是非やっていただきたい」と述べました。

5月末（「学校再開」時）に、岐阜市教育委員会から「令和2年度の学校行事は中止」という方針が示されました。そんな中、岐阜小学校は、学年や学年部毎の活動にしたり、TV放送等を駆使したりして、できる限りの行事的活動（体験を伴う学習）も考えてきています。夏休み前の職員会で「低学年『校歌ダンス』、中学年『リズムダンス』、高学年『岐阜小ソーラン』を体育の時間に練習し、10/22（木）に『団体演技発表会』（運動場での演技披露 ⇄ ベランダからの見学）を設定（保護者やCS関係者にはビデオ録画視聴の機会を提供）する。」という計画を確認し合い、8月下旬の市教委からの照会に答えたり、9月上旬のPTA役員会や学校運営協議会でお伝えしたりしました。実は、このことを6年生児童に伝える前に、9月26日の学校HPで紹介したように、6年生児童から次のような「自発的な動き」があったのです。

9/18（金）5時間目、6年生が学年集会「今年の運動会をどうするか全員で話し合おう」を行っていました。班長会からの提案は「今年は運動会がなくなってしまったけど、ソーランを踊ることはできるのでは？」という内容でした。学年主任から「みんな本当に踊りたいのか？」と確認があり、ソーランを踊ることが決まりました。「どうして踊りたいのか？」と問われ、話し合いは白熱していきました。伝統、感謝、努力、憧れ、全力、団結力、継承、…多くのキーワードが出たようですが、「これまで続けてきた岐阜小ソーランを自分たちで途絶えさせることはできない。5年生に“魂”を引き継ぎながら、下学年の子たちに憧れをもってもらえる“踊り”を見てもらう。」ということが決まったようです。そして、9/23（水）昼休み、班長会の12人が校長室に「5、6年生で岐阜小ソーランを踊らせて欲しい」とお願いに来ました。その理由や目的も聞き、私は「校長先生も同じことを考えていたから、6年生の方からそう申し出てくれたことはとても嬉しいし“心を姿で表す”という気持ちは了承した。ただし、目指すのは、全員で揃える集団の美しさなのか、一人一人が全力を示す動きなのか、それを明確にして欲しい。」と応えました。すると、その場で何人かの班長から思いや考えが口々に発せられ「5、6年生の約110人の、どの子を見ても、努力や感謝の気持ちが伝わる、一人一人の『全力の踊り』の発表を目指す。その結果として『団結力』のようなものも感じてもらえたら、そのことも喜び合いたい。」という方向とすることを確認し合いました。



9月下旬から、予定通り「運動会」に代わる行事「団体演技発表会」への取組がスタートしました。6年生のように「自分たち発信」は難しいと思いますが、目的や趣旨、取り組む意義を十分に考えさせ（伝え）ました。学年部の4学級の体育の時間を利用し、週3時間を上回らない予定で取り組んでいきます。「団体演技発表会」当日となる10/22（木）の日程は、1時間目が3、4年生の最終練習～本番（9:10～）、2時間目は1、2年生の最終練習～本番（10:05～）、そして、3時間目に5、6年生の最終練習～本番（11:10～）と考えています。web版PTA会報「PTAがつくる岐阜小学校のページ」に動画がアップされる日を楽しみにしながら、お子さんへの励ましの声かけもよろしくお願ひします。

学校だより

令和2年度 第6号

岐阜市立岐阜小学校

ふるさと大好き

令和2年8月31日

岐阜市大工町1番地

TEL 058-265-6388

岐阜小学校でしかできない「体験学習」

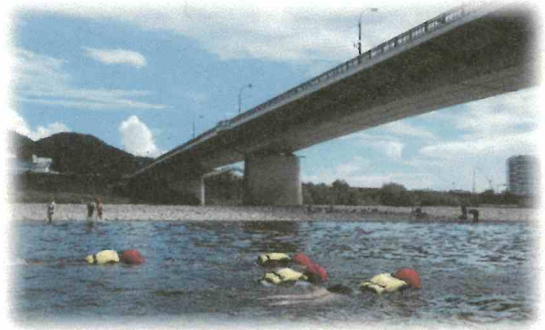
校長 藤田 忠久



コロナ禍の“特別な”令和2年度は、残念ながら水泳学習（プール開放）が中止となってしまいました。ただし、2年間もプールを使用せずに放置しておくのは衛生的にも良くないので、全市的に「プール掃除は（職員で）行う」ように

指示がありました。しかし、岐阜小学校では、高学年が「学校のために役立ちたいのでプール掃除をやらせてください」と申し出てくれました。6年生には「これまで5年間使ってきた感謝の気持ちを込める」意義もあり、5年生には「総合的な学習『長良川』の体験活動の予行演習として利用する」意味もあることを考慮し、5、6年生の厚意に甘えることにしました。7月20日（月）に5年生がプールサイドなどを掃除し、翌21日（火）に6年生がプールの中をきれいにしてくれました。水も入れ替えて準備万端。本来ならば、全校児童が水遊びや水泳の学習に取り組むところですが、今年度は予定通り、5年生が7月30日（木）と8月1日（土）にフローティングベストで浮かんだり、流れたりする練習の場として、プールを使うだけになりました。

こうして迎えた夏休み明けの8月27日（木）、5年生の「ふるさと学習」の一環として「長良川での体験活動」を行いました。本校職員6名に加え、岐阜小学校のコミュニティ・スクールやPTAから約30名、岐阜大学教育学部保健体育講座の学生6名のボランティアに集まっていた



だき、5年生が多くの人に見守られながら、二つの活動を楽しみました。一つは、フローティングベスト（ライフジャケット）着用して100m程を流れながら、金華山を仰



ぎ見ての景色の美しさ、清流「長良川」の心地よさを全身で味わい、バディと共に長良川にダイブする面白さを十分に感じました。もう一つは、金華橋の下流側の浅瀬で「生き物採取」（魚とり）をする活動でした。朝の5年生「学年集会」に6年生の3人が昨年度の経験を踏まえた極意を伝授してくれたのですが、この日は西風が強くて川面がさざなみ、水の上からは川の中がとても見にくくなっていたり、川底の石に藻が張っていて歩くと水中が緑になって透明度が減ってしまったりし、大変苦戦していました。それでも、魚を見つけては夢中になって網で掬おうと、楽しみながら活動を続けていました。中には15cm程のヌマチチブを含め、一人で数匹の魚をゲットした子もいました。

ボランティアのお一人が「岐阜市にはこんな素晴らしい川があるのだから他の学校もやればいいのに…」とおっしゃっていました。しかし、これだけのボランティアに集まっただけ、学校から歩いてすぐ近くにこんな環境がある本校ならではの、岐阜小学校でしかできない活動だと思っています。この、五感全てを使った「長良川体験活動」は、岐阜小学校の伝統にしていけると良いと思っています。



学校だより

令和2年度 第5号
岐阜市立岐阜小学校

ふるさと大好き

令和2年7月31日
岐阜市大工町1番地
TEL 058-265-6388

岐阜小校区（素晴らしい地域）ならではの『本物の学び』

校長 藤田 忠久

7月20日の学校HPで、コミュニティ・スクール（CS）の様子を話題にしました。そこには、7月16日に、第2回『学校運営協議会』を開き、今年度のCSの方向について話し合いました。学校からは「コロナ禍で“特別な”令和2年度は、専門部ごとに学校に集まって活動することより、岐阜小CS（全体）として『校外学習』の見守りや援助等のサポート（協力）を中心とした活動をお願いしたい。」とお伝えし、委員の皆様にて承していただきました。また、学識経験者として委員になっていただいている大学の先生方からは「実際の図書館の工夫や『PTAがつくる岐阜小学校のページ』サイトに上がった動画を観て、岐阜小学校の頑張りを感じるとともに、例年にはない“コロナ禍だからこそそのアイデア”もあって、大きな成長を感じる。」とお褒めの言葉をいただきました。

と紹介しました。今年度は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、地域の皆様に学校に集まっていたことは難しいと判断し、恒例のボランティアの方々による見事な「読み聞かせ」、飛躍的に発展を遂げてきた「サマースクール」、伝統を誇る一大イベント「ふれあいフェスタ」などは、残念ながら見送らざるを得ない状況です。それでも、岐阜小学校の校区（金華・京町地域）は、自然・歴史・文化・産業等の学習素材の宝庫であり、生活科・社会科・総合的な学習の時間を中心とした『ふるさと学習』は、今年度も継続することができます。つまり、市が中止としている「社会見学」でなく、教科や領域の授業の一環として、校区内の「校外学習」に出かけることができる地域です。今年度は、学校の外に出て行う学習活動のサポートを、岐阜小CSの活動の柱にさせていただくことが決まったのです。

6、7月の間にも、1、4、5年生が1回、6年生が2回、3年生は4回も「校外学習」に出かけています。それぞれに岐阜小学校だからこそできる「体験的な学習」をしてきました。その一例として、7月17日の学校HPでは、6年生「校外学習」を次のように紹介しました。

7/15に、6年生が「麒麟がくる」研修に行ってきました。研修の目的は「大河ドラマ『麒麟がくる』に縁がある齋藤道三公や織田信長公を調べ、その足跡を辿る活動を通して、岐阜町の奥深さに気付くことができる。」で、行き先（目的地）は大河ドラマ館（歴史博物館）、岐阜城（金華山）、常在寺、庚申堂、岐阜公園、川原町です。「岐阜小学校の東門は、どうしてあんなに立派な門なのか？」「川原町のお堂の入口には、何故猿の置物が飾ってあるのか？」…普段、何気なく歩いている通学路ですが、そこを約550年前に、齋藤道三公や織田信長公が通っていたのです。道三公や信長公が見下ろしていた濃尾平野の景色を、6年生の子供たちも、同じ場所から同じような気持ちになって眺めることができたのです。岐阜まちは、日本の歴史を動かした拠点ともいえる凄いところであり、「自慢のふるさと」と再認識したことと思います。

明日（8/1）予定していた「校外学習」の5年生「長良川での体験」（フローティングベストで川を流れる）活動は、長良川の状態から“中止”（8月下旬に延期の予定）の判断をせざるを得ませんでした。水位の高さや水温の低さから「安全確保が難しい」と考えたのです。この「校外学習」には、ボランティアとして協力をしていただける方が25名もおみえになっただけに、本当に残念で仕方ありません。しかし、夏休み明け以降にも、各学年で様々な「校外学習」を考えています。どうか、これからも岐阜小学校の『ふるさと学習』への活動サポートをよろしくお願いいたします。

今年度の夏休みは、8月5日（水）～20日（木）という短縮版となります。各ご家庭でよく話し合い、感染症拡大防止や熱中症予防をはじめ、健康で安全な暮らしとなるよう努め、実りある16日間をお過ごしいただきたいと思います。8月21日（金）には、元気いっぱい明るい笑顔のみんなに再会できることを心から楽しみにしています。

学校だより

令和2年度 第4号
岐阜市立岐阜小学校

ふるさと大好き

令和2年7月1日

岐阜市大工町1番地
TEL 058-265-6388

d・cap-Do! で「新たな創造」に挑戦

校長 藤田 忠久

“特別な”令和2年度の学校再開にあたり、最高学年としての6年生が、分散登校中の『1年生の下校』見守りを考えました。午前授業に登校した地区の6年生が、1年生と一緒に下校しながら「見守り」をしてくれたのです。自宅近辺に住む1年生と一緒に帰りながら、声をかけたり会話を交わしたりしながら、暑い中での下校時間も楽しめるように、気遣いや心配りをしていました。1年生も、6年生のお兄さんやお姉さんと仲良くなって、次第に緊張も解れていったようです。

全員が揃った第3週からは、教科の授業を進めながら、学級や児童会の組織を決めました。5、6年生はそれぞれ「3密」回避の対策を講じながら短時間の学年集会を開き、委員会の説明や委員長をはじめとする委員会所属を決めました。実は、学校再開に向けた職員会で「当面は児童集会も創造的な活動も難しいので、前期は当番活動を進めるという方向で、委員会の時間も前期は3回とする。」と話し合いました。そんな中での第1回「委員会」（6/17）だったのですが、子どもたちから「コロナだからこそ、全校のためになる新しい活動を考えます。」等の決意表明がありました。委員会終了後に「あんなに高い志をもっているのに、当番活動だけじゃかわいそうだね。」「委員会の時間以外にも集まって話し合えると思うし、キャンペーンなんか企画していいんじゃないかなあ。」という児童会担当二人の会話が聞こえてきて、方針を変更することにしました。これこそ“特別な”令和2年度の、岐阜小学校「学校経営」として考えている「d・cap-Do!」の具現化だと感じました。

※「d・cap-Do!」とは、「従来のPDCA (plan-do-check-act) サイクルではなく、過去や現在よりも未来に目を向け、その未来に働きかけることで、より多くの価値、成果、幸福を生み出すことができるという考え方で、ゴールそのものとそのためのアクションを、自動的に補正しながらプロセスが繰り返されるイメージ」の「フィードフォワード→アクション」(FFA) プロセスという思考も生かしながら、「まず実行し、振り返り・改善・次の計画を、ほぼ同時に進め、新たに実行する」フレームワークです。

また、本校では感染症予防を徹底する当面の学習指導を、格子型やテスト隊形での「講義形式」と考えていました。しかし、6年生の学ぶ姿を見て、知識伝達型を連想させる「講義形式」ではなく、汎用性のある考え方（比較・関連・分類・総合等）をフル活用し、自分たちで学びを深めたり広めたりする「全体交流」を位置づけた授業を目指すことに切り替えました。これも「d・cap-Do!」です。

6月24日（水）には、体育館での「児童集会」ではなく、各教室での「テレビ放送」という形で、『ようこそ1年生の会』（旧「1年生を迎える会」を改称）を行いました。児童会で考えた目標「1年生の子が『岐阜小学校は楽しい』と思える会にしよう!」を達成することができ、とっても素敵な児童会イベントとなりました。6年生による「歓迎セレモニー」の発表は、ビデオ放送にとどまらず、リアルタイムの「声かけ」や「校歌合唱」が含まれ、“ライブ感”満載の素晴らしい内容・方法でした。1年生の教室では、子どもたちの笑顔がはじけ、自然な拍手が生まれていました。会の終了後に行った6年生の振り返り（交流）では、「1年生の子たちが笑顔で楽しんでくれて嬉しかった。」「5年生の人たちにも憧れをもってもらえたと思う。形は変わるかもしれないけど、伝統として繋いでいって欲しい。」「新しく『つくる』ことが楽しかった。これからも今までにないものを創っていきたい。」という感想が出されたようです。また、全校での『ようこそ1年生の会』終了後には、2年生が1年生の教室に行って、手作りの「歓迎メダル」を首にかけてあげました。嬉しそうにメダルに目を通す1年生も、それを見つめる2年生もとても輝いていました。

7月以降も、『安心』『楽しさ』という軸はぶれないように、臨機応変な『対応』をしながら「成長を実感」できる学校を創っていくために、子どもたちによる主体的な取組や斬新なアイデアを含め、教育目標の具現化された実践を、紹介したり発信したりして、認め価値付け広めていきたいと思えます。

学校だより

令和2年度 第3号
岐阜市立岐阜小学校

ふるさと大好き

令和2年6月1日

岐阜市大工町1番地
TEL 058-265-6388

特別な「令和2年度」いよいよ始業！

校長 藤田 忠久

先週の「登校日」に配布した「令和2年度における教育活動の再開について」でお知らせしたように、「午前・午後の2部制、少人数学級によって1教室20人以下の密度に抑制」して再開（始業）する6月の2週間となります。3ヶ月間の休業期間を経ての学校再開ですので、3時間授業の中で学校生活のリズムを取り戻して欲しいと思います。

そして、通常授業が始まる6月第3週からも「授業日数（標準時数）確保」や「第二波・第三波への備え」として、いくつかの判断がなされたり、多くの制約が設けられたりしました。とりわけ、運動会をはじめとする「学校行事の中止」には、大きな衝撃があったと思います。東京オリンピック・パラリンピックの延期決定に始まり、中体連、インターハイ、甲子園大会（高校野球）等の中止も続々と発表され、部活動に取り組んできた高校3年生や中学校3年生の子たちの心情を考えると、いたたまれない気持ちでいっぱいになりました。これらと同様に、児童会や学校行事での活躍を誓っていた小学校6年生にとっても、今回の発表は大きなショックになったことと思います。

4/22に配布した学校便り「ふるさと大好き」5月号に、「開校13年目となる今年度は『県都の中核校』『岐阜市の希望の光』として、更なる高みを目指そう！と決意を新たにしていたところでした。が、…」 「地域に『開かれた学校』を特長に掲げ、学校の教育活動を実践してきた本校にとって“閉ざさなければならない”状況は本当に残念でなりません。」と書かせていただいたのですが、6月から始まる令和2年度は「特別な年度」です。ハイタッチや握手等のスキンシップのみならず、心身ともに触れ合いに溢れる、本来の岐阜小学校らしい教育活動ができなくなります。コミュニティ・スクール先進校として、「校外学習」に何度も出かけたり、コミュニティ・ティーチャー（地域の外部講師）と共に学び合ったりする「ふるさと学習」にも、大きな制限が加わることとなります。

それでも、岐阜小学校は「子ども自身が『自分は成長した』と自信を持ち、保護者や地域住民が『子どもが育っている』と安心し、教員も保護者も人として成長していく、誇りに溢れる『成長を実感』できる学校」を目指したいと思います。新型コロナウイルス感染症の「パンデミック」（世界的流行）は、世界史に残る事案です。令和2年度に小学校に通う子供たち一人一人が、それぞれの学年の「歴史の証人」となるのです。こんな特別な「令和2年度」に、岐阜小学校の子供たちが「何を学び、どんな成長を遂げるのか!？」は、とても重要です。例年通りには進まない10ヶ月間ですが、この期間でしか「感じられないこと」「考えられないこと」「味わえないこと」が、きっとあるはずです。どうか、特別な「令和2年度」の教育活動にも、ご理解ご協力をいただきますよう、よろしく願いいたします。



学校だより

令和2年度 第2号
岐阜市立岐阜小学校

ふるさと大好き

令和2年4月22日
岐阜市大工町1番地
TEL 058-265-6388

「前向きに 直向きに」“時”を待つ

校長 藤田 忠久

岐阜小学校は、岐阜市最初のコミュニティ・スクール（CS）に指定され、文部科学省研究指定事業「地域や家庭との連携・協働」教育プログラムを開発し、「ふるさと大好き」を合い言葉に先駆的な実践を進め、持続可能な「地域創造型」の学校へと進化・発展を遂げてきました。昨年度の「社会科全国大会」では、CSとしての成果を遺憾なく発揮して「コミュニティ・ティーチャー（地域の外部講師）と共に学び合う」授業を全学級で公開し、「日本一の心意気」を学ぶ姿で示すことができました。開校13年目となる今年度は、「県都の中核校」「岐阜市の希望の光」として、更なる高みを目指そうと決意を新たにしていたところでした。が、…

地域に「開かれた学校」を特長に掲げ、学校の教育活動を実践してきた本校にとって“閉ざさなければならない”今の状況は、本当に残念でなりません。私の「座右の銘」は「前向きに直向きに」です。世の中の「どんなことにも価値はある」とポジティブに受け止め、「やるべきこと、やれること、やりたいこと」に必死に取り組むことを、肝に銘じてきたつもりです。しかし、今の“新型コロナウイルス感染症”に対しては、なかなかポジティブな気持ちになれずに日々を過ごしていました。それでも、「未曾有のこんな機会を、学びや成長へと繋げないことは、如何にも勿体ないし駄目なことだ」と決意を新たにしました。これまでも学校便り4月号やホームページでも訴えてきたことですが、「新型コロナウイルス感染症や風評被害・誹謗中傷に対しても“当事者”としての自覚をもって問題解決への最適解を求めること」「自分の命は自分で守ること、家族をはじめ大切な人を気遣い、感染予防を呼びかけることを意識し、“今しか学べない（今だから学べる）こと”を学ぶこと」などは、子供たちはもちろんのこと、私たち大人にとっても成長へと繋げる大きなチャンスだと思うのです。

また、マスメディアには「崩壊？親子関係 不安、自粛ストレス…虐待危惧」などの文言が並び、休校中の家庭の様子が社会問題化されています。このことに関しても、岐阜小学校では「学校での仲間との学びとはひと味違いますが、こんな場合にしかできない『親子で向き合い家族とともに学ぶ』絶好の機会』ととらえ、楽しく取り組んでみてください。」「授業動画の視聴やeライブラリ・アドバンスによるドリル学習は、お父さんやお母さんのスマホ等を利用し、親子で一緒にご活用いただくことをお勧めします。」など、HPで話題にしてきました。こんなときだからこそ、「岐阜市の希望の光」を目指す岐阜小学校区のご家庭（児童と保護者）では、この臨時休業（期間）を“家族や親子の絆”を深める好機と捉えていただき、「家庭での生活や学習を充実させて欲しい」と心から願っています。

始業式や入学式が延期されたまま、「学校再開」への目処も明確には立っていない段階ですが、この「臨時休業」期間中には各ご家庭でじっくりと力を蓄え、令和2年度の正式な始業後には子供たちが大きく羽ばたいていくことができるよう、今は家庭と学校がそれぞれにできることを精一杯進めていきたいと思います。ご理解ご協力の程、どうぞよろしく願いいたします。

学校だより

令和2年度 第1号
岐阜市立岐阜小学校

ふるさと大好き

令和2年 4月 吉日
岐阜市大工町1番地
TEL 058-265-6388

岐阜小学校『緊急非常事態』宣言！

校長 藤田 忠久

4月7日(火)には、爽快に晴れ渡る青空の下、咲き誇った花びらは散り始めたものの、新たな若葉の芽吹きを感じる校庭の桜が出迎える中、約5週間ぶりに子供たちが登校して来る予定でした。新たな仲間との新しい生活への決意と、進級の喜びに溢れる4月となるころでしたが、今年は不安や心配を抱えたまま迎える“特別な”新年度のスタートとなりました。午後の入学式も実施することができず、学校再開は延期されることになってしまいました。例年とは大きく異なり、学級や児童会の組織編成もできず、授業すら進められない状況で、まさに緊急時の「非常事態」です。令和2年度第1号となる4月号のこの紙面は、今年度の夢や期待をお伝えしたかったのですが、それは「新型コロナウイルス感染症」対応の収束が見られた頃に、改めて「岐阜小学校の特色ある教育活動再開」として、紹介させていただこうと思います。

過去に経験したことのない大変厳しい局面を目の前にし、まさに今が正念場です。岐阜小学校は、子供たちの安心・安全を最優先に考えながら、少しでも家庭で学習をするための情報を提供できるように、全職員の英知を結集し、いつでも子供たちを迎えられるように準備をしながら、この難局に立ち向かってまいります。そのためにも、保護者の皆様のご協力が不可欠となります。毎日の「検温」と「体調確認」、「こまめな手洗い(手指の消毒)」や「咳エチケット(マスク着用)」といった基本的な予防対策の徹底をお願いいたします。そして、感染リスクの高い「密閉」「密集」「密接」を避けることにも努めてください。ご家族の方も含め、夜間の外出、不要不急の外出、特に週末の大勢の人が集まる場所への外出については、極力控えていただきますよう、ご協力ください。

新1年生39人を加えて全校児童316人。今年度も、ひまわり学級を含め、全ての学年が2学級でスタートしました。この緊急(非常)時においても、本校は児童と職員総勢351人で、モデルケースを示す「希望の光」を目指していきます。どうぞ、変わらぬご理解とご支援・ご協力をお願い申し上げます。

児童への校長メッセージ 岐阜小学校の児童の皆さん、新年度の校長先生の思いや願いを、直接会って伝えることができないことが残念ですし、皆さんの元気な姿を見られないことは、とても淋しいです。今、日本を含め、世界中が大変な状況になっています。そして、この岐阜市も例外ではありません。友達と会えなくて辛いだろうし、退屈で息が詰まりそうな毎日を過ごしていることだとおもいます。すぐに気持ちを切り替えることは大変だと思いますが、こんなときだからこそ、命や健康の大切さ、平和な日々のありがたさを噛み締めて欲しいと思います。そして、世の中に目を向け、自分のできる何かを考え、実行して欲しいと思います。自分の命は自分で守る気持ち、家族をはじめ大切な人たちへの気遣い、感染予防に努める呼びかけを、意識してください。明けない夜も、やまない雨も、ありません。きっと平穏な毎日が戻ってきます。それまでの間、今しか学べないことを学び、自分の成長へと繋げてください。